

【歌川広重の浮世絵】をクリアファイルで発売！！

～ 豊島区立郷土資料館オリジナルクリアファイル<浮世絵シリーズ>発売 ～

豊島区立郷土資料館(豊島区西池袋 2 丁目 37 番 4 号)で、オリジナルクリアファイル<浮世絵シリーズ>が発売された。歌川広重と胡蝶園による浮世絵をクリアファイル化。

図柄は、江戸時代の高田・染井・巢鴨・雑司ヶ谷の 4 種類。各クリアファイルには、浮世絵の解説シートがついており、江戸時代の豊島区の風景を知ることができる。

① 高田 :歌川広重画『名所江戸百景 <高田姿見のはし、佛の橋、砂利場>』

本図は、新宿区側の上空から豊島区側に向かって、神田川に架かる面影橋およびその周辺地域を描いたもの。当時、このあたりの神田川沿いは砂利の採取場だった。多くの自然が残る時代の穏やかな風景が描かれている。

② 染井 :歌川広重画『江戸名勝図会 <染井>』

江戸時代後半から明治時代にかけて、染井通りの北側には多くの植木屋が集住していた。江戸に居住する人たちは、四季折々の植物が楽しめる花名所として染井の植木屋を訪れた。当時の植木屋は、広い敷地に植木や鉢植えを配置し、見物客が自由に回遊できるつくりになっていた。

③ 巢鴨 :胡蝶園画『流行菊の花揃 <巢鴨植木屋弥三郎>』

江戸時代、巢鴨の植木屋は菊の栽培を行っていたため、多くの菊見客が訪れた。巢鴨の植木屋が得意とした菊の形作りの技術は、幕末以降の菊人形へと受け継がれて行く。本図は、巢鴨の植木屋弥三郎が作った富士山と鶴の形作りを、見物客が感心しながら眺めている光景を描いたもの。

④ 雑司ヶ谷 :歌川広重画『江戸高名会亭尽 <雑司ヶ谷之図>』

江戸時代以降、安産・子育ての信仰を集めてきた雑司ヶ谷鬼子母神は、江戸に居住する人たちが、半日ないし一日で往復できる参詣地として大いに賑わった。本図は、鬼子母神の参道沿いで営業していた「茗荷屋」の様子が紹介されている。店の前にはケヤキ並木が続き、参詣者らが描かれている。また、左端の子どもの手には、鬼子母神の参詣土産として売られていた「すすきみみずく」が握られている。

価格・販売所	浮世絵解説シートつき、1 枚 200 円。 豊島区立郷土資料館窓口にて販売。	
背景 補足事項	豊島区立郷土資料館：【開館時間】午前 9 時から午後 4 時 30 分 【休館日】毎週月曜日、第 3 日曜日、祝日、【入館料】無料 【交通案内】JR 山手線・地下鉄有楽町線・丸の内線・副都心線・西武池袋線・東武東上線池袋駅 西口徒歩 10 分・メトロポリタン口徒歩 8 分	
写真 *写真はメールで送ります	ファイル一覧 	ファイルを持つ職員 
問合せ	豊島区郷土資料館	